

令和6年（納）第24号

課 徴 金 納 付 命 令 書

東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地

三井住友海上火災保険株式会社

同代表者 代表取締役 《 氏 名 》

公正取引委員会は、上記の者に対し、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（以下「独占禁止法」という。）第7条の2第1項の規定に基づき、次のとおり命令する。

なお、理由、別紙1及び別紙2中の用語のうち、別紙2「用語」欄に掲げるものの定義は、別紙2「定義」欄に記載のとおりである。

主 文

三井住友海上火災保険株式会社（以下「三井住友海上」という。）は、課徴金として金1億7286万円を令和7年6月2日までに国庫に納付しなければならない。

理 由

1 課徴金に係る違反行為

三井住友海上は、別添1令和6年（措）第12号排除措置命令書（写し）記載のとおり、他の事業者と共同して、別紙1記載の損害保険（以下「本件備蓄基地保険」という。）について、三井住友海上、損害保険ジャパン株式会社及び東京海上日動火災保険株式会社の3社が事前に想定した引受保険料及び引受割合で受注できるようにすることにより、公共の利益に反して、本件備蓄基地保険の取引分野における競争を実質的に制限していたものであって、この行為は、独占禁止法第2条第6項に規定する不当な取引制限に該当し、独占禁止法第3条の規定に違反するものであり、かつ、独占禁止法第7条の2第1項に規定する役務の対価に係るものである。

2 課徴金の計算の基礎

(1)ア 三井住友海上は、本件備蓄基地保険の引受けを行う事業を営んでいた。

イ 三井住友海上が前記1の違反行為の実行としての事業活動を行った日は、

本件備蓄基地保険について三井住友海上が前記1の違反行為に基づき最初に入札した日である令和2年8月26日であると認められる。また、三井住友海上は、令和5年7月21日以降、当該違反行為を行っておらず、同月20日にその実行としての事業活動はなくなっているものと認められる。

したがって、三井住友海上については

(7) 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律の一部を改正する法律（令和元年法律第45号。以下「改正法」という。）附則第6条第2項の規定により変更して適用される改正法による改正前の独占禁止法（以下「改正前の独占禁止法」という。）第7条の2第1項の規定により、当該違反行為のうち改正法の施行の日（以下「改正法施行日」という。）である令和2年12月25日前行われた部分に係る実行期間（以下「施行日前実行期間」という。）は、令和2年8月26日から同年12月24日まで

(i) 独占禁止法第2条の2第13項の規定により、当該違反行為のうち改正法施行日以後に行われた部分に係る実行期間（以下「施行日以後実行期間」という。）は、令和2年12月25日から令和5年7月20日までとなる。

ウ 施行日前実行期間及び施行日以後実行期間における本件備蓄基地保険に係る三井住友海上の売上額は

(7) 施行日前実行期間に係るものについては、改正法附則第6条第2項のなお従前の例によることとする規定により、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律施行令の一部を改正する政令（令和2年政令第260号）による改正前の私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律施行令第5条第1項の規定に基づき算定すべきところ、当該規定に基づき算定すると、6億3153万1299円

(i) 施行日以後実行期間に係るものについては、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律施行令第4条第1項の規定に基づき算定すべきところ、当該規定に基づき算定すると、18億3796万551円である。

(2) 三井住友海上は、独占禁止法第7条の4第3項第1号の規定により、公正取引委員会による調査開始日である令和5年12月19日以後、課徴金の減免に

係る事実の報告及び資料の提出に関する規則（令和２年公正取引委員会規則第３号。以下「課徴金減免規則」という。）第８条に規定する期日までに、課徴金減免規則第７条及び第９条に定めるところにより、単独で、公正取引委員会に前記１の違反行為に係る事実の報告及び資料の提出（既に公正取引委員会によって把握されている事実に係るものを除く。）を行った者である。また、三井住友海上は、当該事実の報告及び資料の提出を行った日以後において当該違反行為をしていた者でない。また、当該違反行為について、独占禁止法第７条の４第１項第１号又は第２項第１号から第３号までの規定による事実の報告及び資料の提出を行った者の数は５に満たないところ、これらの規定による事実の報告及び資料の提出を行った者の数と、同条第３項第１号の規定による事実の報告及び資料の提出を行った者（以下「調査開始日以後の申請事業者」という。）であって三井住友海上より先に課徴金減免規則第７条第１項に規定する報告書の提出を行った者の数を合計した数は５に満たず、かつ、調査開始日以後の申請事業者であって三井住友海上より先に同項に規定する報告書の提出を行った者の数を合計した数は３に満たない。したがって、三井住友海上は、独占禁止法第７条の４第３項第１号及び第３号に該当する者であり、同項の規定の適用を受ける事業者であるから、三井住友海上が同項の規定により減額を受ける額は、減算前課徴金額に１００分の１０を乗じて得た額となる。

(3) 三井住友海上は、公正取引委員会との間で、独占禁止法第７条の５第１項の規定に基づき、別添２合意書（抜粋）のとおり合意し、同合意書第１条に掲げる行為を行った。したがって、三井住友海上が、独占禁止法第７条の５第３項の規定により、合意の内容に応じ、独占禁止法第７条の４第３項の規定により減額を受ける額に加えて減額を受ける額は、減算前課徴金額に１００分の２０を乗じて得た額となる。

(4) 三井住友海上が国庫に納付しなければならない課徴金の額は

ア 改正法附則第６条第２項の規定によりなお従前の例によることとされる改正前の独占禁止法第７条の２第１項の規定により、施行日前実行期間に係る売上額６億３１５３万１２９９円に１００分の１０を乗じて得た額

イ 独占禁止法第７条の２第１項の規定により、施行日以後実行期間に係る売上額１８億３７９６万５５１円に１００分の１０を乗じて得た額

を合計した額から、独占禁止法第７条の４第３項及び第７条の５第３項の規定

により当該額に100分の30を乗じて得た額を減額し、独占禁止法第7条の8第2項の規定により1万円未満の端数を切り捨てて算出された1億7286万円である。

よって、三井住友海上に対し、独占禁止法第7条の2第1項の規定に基づき、主文のとおり命令する。

令和6年10月31日

公 正 取 引 委 員 会

委員長 古 谷 一 之

委員 三 村 晶 子

委員 青 木 玲 子

委員 吉 田 安 志

委員 泉 水 文 雄

注釈 《 》部分は、公正取引委員会事務総局において原文に匿名化等の処理をしたものである。

## 別紙 1

独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構が一般競争入札の方法により発注する、同機構が管理する国家石油・石油ガス備蓄基地等を対象とする企業財産包括保険、火災通知保険、土木構造物保険及び総合賠償責任保険

別紙 2

番号	用語	定義
1	企業財産包括保険	「企業財産包括保険」と称する、火災、風災等によって備蓄基地の施設等に生じる損害を補償する損害保険
2	火災通知保険	「火災通知保険」と称する、火災、風災等によって備蓄基地における石油・石油ガス等に生じる損害を補償する損害保険
3	土木構造物保険	「土木構造物保険」と称する、火災、風災等によって備蓄基地の橋梁、地下タンク等に生じる損害を補償する損害保険
4	総合賠償責任保険	「総合賠償責任保険（CGL保険）」と称する、備蓄基地の対象施設等における事故に起因して、当該施設等の管理者等に生じる損害賠償責任を補償する損害保険
5	引受保険料	損害保険会社が共同保険を引き受ける場合の保険料の総額
6	引受割合	共同保険において、引受損害保険会社が当該保険契約に基づく権利義務を引き受ける割合
7	共同保険	二以上の損害保険会社が共同で同一の保険を引き受ける保険であって、これらの損害保険会社が当該保険を引き受ける割合に応じて保険契約に係る権利を有し、又は義務を負うもの

## 合意書（抜粋）

公正取引委員会及び三井住友海上火災保険株式会社（以下「報告等事業者」という。）は、令和5年（査）第17号独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構を保険契約者とする損害保険の引受損害保険会社らに対する件（以下「本件事件」という。）について、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（以下「法」という。）第7条の5第1項の規定による協議を行った上で、次のとおり同項の規定による合意（以下「本件合意」という。）をする。

（報告等事業者による行為）

第1条 報告等事業者は次に掲げる行為をするものとする。

- 一 法第7条の4第3項第1号に規定する事実の報告及び資料の提出により得られた事実又は資料に関し、公正取引委員会の求めに応じ、事実の報告、資料の提出、公正取引委員会による報告等事業者の物件の検査（以下「検査」という。）の承諾その他の行為を行うこと。
  - 二 公正取引委員会による調査により判明した事実に関し、公正取引委員会の求めに応じ、事実の報告、資料の提出、検査の承諾その他の行為を行うこと。
  - 三 本件合意後、本件事件についての新たな事実又は資料を把握したときは、直ちに、公正取引委員会に当該新たな事実又は資料の報告又は提出を行うこと。
  - 四 前号に掲げる行為により得られた事実又は資料に関し、公正取引委員会の求めに応じ、事実の報告、資料の提出、検査の承諾その他の行為を行うこと。
- 2 報告等事業者は、前項第1号、第2号又は第4号の公正取引委員会の求めの際に公正取引委員会が定める履行期限までにこれらの号に掲げる行為を履行するものとする。

（公正取引委員会による行為）

第2条 公正取引委員会は、百分の五から百分の二十までの範囲内において、公正取引委員会が、別紙に基づき、事件の真相の解明に資する程度を評価して決定する法第7条の5第2項第2号に規定する評価後割合を乗じて得た額を、法第7条の2及び法第7条の3の規定により計算した課徴金の額から減額するものとする。

（略）

## 別紙 評価方法及び減算率

### 1 評価における考慮要素

事件の真相の解明に資する程度を評価するに当たっては、事件の真相の解明の状況を踏まえつつ、報告等事業者が報告等を行った課徴金の減免に係る事実の報告及び資料の提出に関する規則（以下「規則」という。）第17条に規定する事項に係る事実の内容について、①具体的かつ詳細であるか否か、②当該事項について網羅的であるか否か、③当該報告等事業者が提出した資料により裏付けられるか否かの要素を考慮する。

前記各要素の考慮に当たっては、例えば、調査対象の事件の事実認定において必要となる規則第17条に規定する事項について、他の事業者等から収集した事実等から判断した報告等事業者の違反行為への関与の度合いに応じ、その把握し得る限りで報告等がされたか否かといった、事件の真相の解明の状況を踏まえることとする。

### 2 減算率

公正取引委員会は、事件の真相の解明に資する程度について、前記1に掲げる三つの要素を考慮して、下表のとおり減算率を決定する。

表 事件の真相の解明に資する程度に応じた減算率

事件の真相の解明に資する程度	減算率
高い（全ての要素を満たす）	20%
中程度である（二つの要素を満たす）	10%
低い（一つの要素を満たす）	5%